



絶滅危懼種  
京丹後のハヤブサ



## 京都連絡会第8回総会を開催

報告 池田

コロナ禍のあおりを受けて延期されていた米軍 X バンドレーダー基地反対・京都連絡会の第八回総会が、4月23日、京都府部落解放センターで開催されました。

総会では、永井友昭さん（京丹後市議／京丹後宇川（の風代表））のオンラインでの現地最新状況報告や、パワーポイントでの昨年の京都連絡会の活動の紹介を受けつつ、この一年間の取り組みの総括・反省点を提出し、今年2022年の活動方針を採択しました。総会はまだ、京都連絡会の共同代表、運営委員、会計監査を選出しました。その後の5月運営委員会会で、2022年の事務局体制を確認しました。それらは以下の通りです。なお、総会の詳細は会報 No.40 に掲載されているので、詳しくはそちらをご覧ください。

ロシア・プーチン政権のウクライナ侵攻、それに乘じた岸田政権の安保強化・戦争政策の推進の中、米軍 X バンドレーダー基地撤去、反戦・反基地・反安保のたたかいはますます重要になっています。総会方針を踏まえ、活動をさらに前進させていきましょう。

### 2022年京都連絡会運営体制

- ・共同代表：大湾宗則、白井美喜子  
瀧川順朗、仲尾宏

- ・運営委員：池田高嶺、上岡修、上山玲子、奥田友美、川口健次、駒井高之、塚本泰史、中沢浩二、藤原敏秀、山本純、吉水律子
- ・会計監査：大湾みどり

### 事務局体制

- ・事務局長：池田高嶺
- ・事務局次長：駒井高之、塚本泰史

## 日米首脳会談・ クアッド首脳会合反対！ 5/22デモに参加しよう

### <デモ要綱>

5月22日（日）午後4時  
京都市役所前集合  
午後4時40分デモ出発  
（仏光寺公園まで）

### 呼びかけ：

米軍 X バンドレーダー基地反対・京都連絡会

団体・個人の賛同をお願いします。

連絡先 090-7108-5508 池田

ロシア・プーチン政権のウクライナ侵攻は、東アジアの情勢にも大きく影響を与えている。私たちにとってもりわけ問題なのは、岸田政権がこの機に乗じて「中国の脅威」をいっそう煽り、日米安保体制の強化と改憲、戦争体制づくりに向けた動きを強化しようとしていることだ。

こうしたなかでこの5月下旬、バイデン米大統領が訪韓・訪日する。

バイデンは韓国の新大統領・尹錫悦（ユン・ソギョル）氏と首脳会談を行った後、5月22日に来日し、5月23日には東京で日米首脳会談、5月24日には日米豪印のクアッド首脳会合と出席する。

日米両政府はこのかん、「台湾海峡有事」における「日米共同作戦計画」の策定を推進してきた。それは「台湾海峡有事」の際に、自衛隊が軍事介入、参戦することを意味するものだ。日米首脳会談の場ではまた、辺野古新基地建設の推進、日本側からの自衛隊の「敵基地攻撃能力」の保有推進が打ち出されようとしている。

また、南北政策の転換と韓米同盟の強化を主張してきた尹錫悦・韓国新政権の下で、THAAD 正式配備に向けた動きが進み、加えて文在寅前政権の下では抑制されてきた朝鮮半島周辺での日米韓三国による合同軍事演習の再開が狙われている。それは不可避に朝鮮半島をめぐる政治的・軍事的緊張を増大させるものだ。

さらに、日米豪印戦略対話（クアッド）とその首脳会合は、「自由で開かれたインド太平洋」のスローガンの下で、中国の「一帯一路」構想に対抗し、この地域における政治的・経済的秩序を主導的に編成していこうとするものだ。それは、アジア太平洋地域での米英豪の新たな安保・軍事協力の枠組みである AUKUS（オーカス）の形成と並んで、地域の緊張を大きく醸成させる要因となっている。

これらは戦争も基地もない世界、東アジアの平和という私たちの願いとは、まったく相容れない。このような動向に断固として抗議の声をあげることが必要だ。排外主義に抗し、自国政府の戦争政策と対決してこそ、反戦平和のたたかいを真に進めていくことができる。

沖縄、アジア、全世界の民衆と連帯し、戦争も基地もない世界の実現に向けて共に声をあげよう！

米大統領バイデン来日ー日米首脳会談ークアッド首脳会合に抗議する5・22デモへの参加を呼びかけます。

## 「街なかビラ」の報告と 今後のお知らせ

### 4月の報告

- 第134回 4月15日（金）百万遍交差点 7人  
百万遍・知恩寺の手作り市で人出が多い日でした。
- タクシー運転手さんが車から合図して、チラシを受け取ってくださった
  - 信号待ちの人の受け取りがいい
  - 受け取る人の9割ほどは女性
  - チラシを見て基地の場所を確認した人
  - レーダー基地は一番に攻撃される、恐い。戦争は絶対にアカン！<女>
  - この日は、ロシアのウクライナ侵攻の話題から戦争は絶対にイヤ！と話される女性に3人出会いました。
- ※ 4月29日と5月12日は雨で中止しました。



### 今後の予定

- 第135回 5月26日（木）大手筋商店街  
集合場所：京阪電車「伏見桃山」駅前  
時間は 11:00～12:00 です  
※ 5/6 発のメールでは場所が「高木町」となっていますが、雨がコワイので大手筋に変更しました。  
(要注意)

ご都合の付く方は、集合場所にお集まりください  
連絡先：090 - 5672 - 1597（白井）

### 京丹後訪問 案内

5/20（金） 5/31（火）  
出発時間 いずれも午前8時30分  
集合場所 鴨川五条大橋西詰のGS前集合

\* 参加される方は事前連絡をお願いします  
(池田 090-7108-5508)

## 大津地裁前連続アピール行動

「労働組合つぶし」の大弾圧を許さない！

塚本



大津地裁前での抗議集会とシュプレヒコール

関生弾圧の大津地裁コンプライアンス裁判は、この4月26日から裁判長が3人目に代わった。

「京滋実行委」は、新任の裁判長と大津地裁職員に向けて、この弾圧の不当性を訴えるため、4月18日から26日まで、土日を除く毎日、正午から午後1時まで大津地裁前で連続アピール行動を行った。連日30人前後の組合員と支援者が参加し、最終日の26日は50名が参加した。4月26日の裁判では弁護側から新たな証拠映像が示された。2018年8月9日に最初に逮捕されたS組合員に対して、8月10日、大津地検の多田検事が検事調べで「連帯（労組）を削る」と何度も発言している衝撃的な映像が映し出された。この発言はその後、関西一円に広がる大弾圧を予告していた。この事実は翌日の京都新聞でも大きく報道され、関生弾圧が当時の安倍政権・検察・警察が一体となって仕組まれた労働組合つぶしを目的とした不当弾圧であることが如実に明らかになった。

## 京都連絡会 5月例会

5月26日(木) 18:30

ひとまち交流館・京都 第三会議室

テーマ：日米首脳会談とクアッド(米日豪印)首脳会合が加速させるアジアの緊張激化と日米安保強化にいかにか戦うか？

課題提起：池田高巖事務局長  
大湾宗則 共同代表

## 5・29(日)大阪うつぼ公園へ 原発のない明日を

うつぼ公園に集まろう！

御堂筋をデモしてアピールしよう！

13時 集会 / 14時半 デモ出発



美浜原発3号機 (2021.10.25) 写真左

関電美浜原発3号機は、今年の12月で運転開始から46年を経過し47年目に突入する。

「3.11」が起こるまで、日本の原発の運転期間に関する上限はなく、事業者まかせであった。

「3.11」への怒りが高まる中で、政府は新規制基準を作り、原発の運転期間は上限40年とされた。ただし、原子力規制委員会の認可を受ければ、運転期間を20年を超えない期間で、1回に限り延長できるとされた。この例外規定を悪用して40年超え原発である美浜3号機、高浜1、2号機、東海第二原発の4基が認可を受けた。

そのトップバッターとして美浜3号機を早ければ今年10月に再稼働させると関電は発表している。さらに来年の初夏には高浜1、2号機も再稼働させるとしている。

ただでさえ危ない原発。その老朽炉がとてつもない危険を秘めていることは誰にもわかる。今、日本の反原発運動は、美浜3号機の再稼働を許し、40年超老朽原発の20年延長運転に道を開くのか、それとも美浜3号機の再稼働をさせず、老朽原発廃炉の突破口をひらくのかという岐路にある。

きたる5月29日にひらかれる「原発のない明日を～老朽原発このまま廃炉！大集会 in おおさか～」で、原発とりわけ老朽原発は絶対に認めないという私たちの声を大きく上げていこう。



## 沖縄は「日本復帰」してよかったか？

「復帰50年」、現状は「復帰前より悪い、復帰しなければよかった」と少し感情的に話す人々の声を沖縄地方紙は伝えている。それほど沖縄の現状は、東アジアにおける日本資本(企業)の権益防衛と中国、朝鮮への安全保障上の軍事的対抗という口実で、ますます在日米軍基地の集中と運用、その結果、PFASや爆音などの基地被害が増えている。それと並行して辺野古新基地建設の強行及び東アジア防衛任務の責任を担った自衛隊の南西諸島への配備が進んでいる。これら日米両軍は、日米安保条約の下に運用されている。

「基地のあるところ標的になる」というウクライナに続いて台湾有事が危険視され、沖縄が再び戦場になるのかという不安が沖縄県民を覆っている。この「不安の度合い」は、かつて地上戦を経験した沖縄と未経験の本土国民の間に深い溝がある。

## 復帰協は呼びかけた・・・「基地のない、平和な沖縄を求めて平和憲法の祖国・日本に帰ろう」と・・・

1950年代の「島ぐるみ闘争」を経て、1960年4月28日に結成された沖縄県祖国復帰協議会は、出発当初は「日の丸」掲げて出発したが、本土民衆との連帯を求めて破竹の勢いで闘いを前進させた。

1965年の佐藤訪沖に抗議、1967年の教公二法(教員・公務員への勤務評定)を2万人の労働者の大衆動員で立法院を包囲・突入して実力阻止、1968年11月に復帰協会長の屋良朝苗氏を初の公選主席に当選させ、沖縄県の自治の第一歩を確保した。そして同年11月、嘉手納基地でB52墜落炎上、これ以降B52撤去、ベトナム人民連帯を掲げた反戦復帰に転換・前進した。

闘いの転機は、1969年11月17日の「佐藤・ニクソン会談」による日米共同声明の内容が判明したから。

この中身は、①沖縄の施政権を1972年に日本に返還 ②在沖米軍基地はそのまま、日米安保の適用 ③日米地位協定による在沖米軍への特権付与 ④基地の自由使用 ⑤有事の核持込みの密約であった。

復帰協が望む「核も基地もない平和憲法の日本へ復帰」という「夢も希望」も打ち砕かれた。沖縄県民は講和条約と日米安保が締結された1952年4月28日以降の日本には、平和憲法は窒息させられ、日米安保体制の日本に沖縄がふたたび併合され、差別的扱いを受けることを思い知らされた。

## 日本政府の沖縄返還協定に復帰協は「抗議ビラ」

この「佐藤・ニクソン共同声明」に対して祖国復帰協は10月、「抗議ビラ」を全島に配布し、抗議行動を展開した。「抗議ビラ」は「第3の『琉球処分』、差別と屈辱を押し付ける『核つき、基地の自由使用』をたくらむ佐藤訪米に反対し、即時無条件全面返還を勝ち取るため、全県民が総決起しよう」と呼びかけている。

中心のスローガンとして、「1.対日講和条約第三条の撤廃 2.一切の核・毒ガス撤去、原潜寄港阻止。 3.ベトナム侵略戦争に反対し、アジアにおける緊張の根源である米軍基地を撤去させよう。4.安保条約を廃棄させ、沖縄を国土防衛の最前線と位置づけて沖縄出身者を中心に自衛隊配備することに反対しよう」と必要なこと全て盛り込み、県民に呼びかけている。

この後、1970年に首切りに反対する全軍労の全面ストライキ、同年コザ蜂起、1971年沖縄返還協定粉碎を掲げた波状的な闘いと国会包囲闘争。

こうして1969年10月の「抗議ビラ」の趣旨に基づいて1972年5月15日、雨の中、与儀公園で県民総決起集会を開催し、「沖縄返還協定糾弾、安保廃棄、自衛隊配備反対」を大書した横断幕先頭に国際通りを団結固めて誓いも新たにデモ行進を行った。

## 沖縄県祖国復帰協議会の闘いとは一体何だったのだろうか？

50年前の「沖縄の日本復帰」とは、日本政府による日本国家への沖縄の再併合であり、沖縄の安保体制への取り込みであった。

沖縄県祖国復帰協議会の闘いは、明治以来の日本国による琉球・沖縄に対する侵略と植民地化、併合同化など沖縄への国策差別を大衆運動として民衆自身の運動で克服しようとした闘いであった。

## 日米安保条約を廃棄する政府を打ち立てよう。

### 主権者として社会権の行使と連帯を！

1897年の明治政府による琉球処分には、琉球民衆も日本民衆も主権者として関与できなかった。

1951年9月の対日平和条約と日米安保条約締結を巡る攻防では、沖縄民衆は米軍政下にあり、主権者の資格を抑圧されていた。日本民衆は国政参政権を持ち平和4原則(全面講和・中立・米軍基地撤去・再軍備反対)を掲げて果敢に闘った。結果として政府によって沖縄民衆と日本民衆は分断され、「屈辱の講和と日米安保条約」を飲まされた。

沖縄を含む日本列島にある米軍基地及び自衛隊基地撤去は、米国および東アジア人民との連帯を背景に沖縄と本土の労働者民衆が日米安保条約を廃棄して米軍も自衛隊も撤去する政府を打ち立てることによってしかなしえない。

決して「万国津梁の会」のごとき日米安保を前提にした「奇策」で日米基地は撤去できない。また、善良なリベラリスト等が「抑止力、武力に頼らず外交力」が強調されているが、外交は国家の利害調整であり、民衆は関わりえない。外交が問題となるときでさえその背後に民衆の「団結と交渉と闘争」(社会権・労働三権)が発揮されていなければならない。反戦・反基地・反安保の闘いにも社会権・労働三権は生かすべしです。